

「J Tの森積丹」 秋の森林保全活動 余別川流域エリアで開催！



- ① カラマツ林の除伐作業
- ② 馬搬（馬で木材を搬出）
- ③ どさんこミュゼ代表取締役宮本英樹氏の森の課外教室
- ④・⑤ 森林体験活動に励む子どもたち



日司地区の安全・安心を！ 第7回「後志地域の森林を守る協会活動」

北海道森林土木建設業協会後志支部（大和田支部長・20社）・倶知安支部（柏谷支部長・4社）主催による第7回「後志地域の森林を守る協会活動」が9月28日に日司町で開催されました。

これは、後志管内町村での社会貢献活動の一環として、平成22年の第1回目（美国小学校周辺）以来6年ぶり、当町では2回目です。

今回は、両支部会員や日司自治会、日司主婦会、積丹建設協会など総勢94人が参加し、日司地区の治山施設の雑木の枝払いや草刈りが行われました。また、日司小学校児童5人とみなと保育所園児8人も参加し、エゾヤマザクラの記念植樹を行いました。

昼食には、日司主婦会（土橋孝子会長・会員35名）手作りの浜鍋などが振る舞われました。

今後も、関係機関の協力をいただきながら、町内の治山施設を守る活動を行ってまいります。



10月15日、日本たばこ産業株式会社（「J T」と協働）の森林保全活動「J Tの森積丹2016秋」が開催され、近田仙之J T北海道支社長と社員や家族の皆さんのほか、国道の林業関係機関など、町内外から約140人が参加しました。

第12回目の森林保全活動は、余別町のサクラマスサンクチュアリーセンター周辺のカラマツ林で行われ、参加者は、後志総合振興局森林室職員の説明と指導のもと、形質不良木を選び、倒れる方向を見定めながらの除伐作業に汗を流しました。

またこの日は、除伐した木を馬が運ぶ「馬搬」や「馬車体験」も行われ、参加者は、積丹町の「馬」による町の活性化の取組を学び、馬とのふれあいを楽しんでいました。

午後からは、木育マイスターのどさんこミュゼ代表取締役宮本英樹氏による「森の課外教室」が行われ、参加者は、6グループに分かれ、当町の森の樹種と植物の特色や、灯油缶に「木の枝」をびっしりと詰め、隙間に注ぎ入れた水の量で、木材の体積を量るゲームなどを行い、森から木材に至るまでの過程を学びました。

また、昼食は町商工会女性部（葛西幸子部長）の協力により、今が旬のサケ鍋が振る舞われ、おかわりが続出する盛況ぶりでした。

これからもJ Tの皆さんをはじめ、関係機関や町民の皆さんの協力のもと、『海を育む水源の森』の実現に向けた取組を進めていきます。

幌武意・入舸・日司 初の「B&G 出前健康講座」

『あなどれない口の健康』／『歩くこと』が大切！

栗原クリニック東京・日本橋院長の栗原毅氏と同歯科医師の栗原丈徳氏を講師に迎えた『町民文化教室「健康講座」』が10月15日、幌武意寿の家と入舸会館、海洋センターでそれぞれ開催され、30人が参加しました。

「B & G 海洋センターを活用した地域コミュニティの再生に関するモデル事業」の一環として、

て、幌武意・入舸・日司地区を対象に初めて行われた「出前健康講座」は、栗原丈徳歯科医師の「あなどれない口の健康」と題した講演の後、参加者たちは講師とともに、幌武意寿の家から入舸会館までの3kmの道のりをゆっくりと歩きました。



▲幌武意～入舸間をウォーキング

入舸会館では、栗原毅医師から「毎日歩いて、めざそう、元気な100歳！」の講演があり、健康に生きるために「歩くこと」の意義や効果、毎日歩くことで身につく、運動習慣や健康意識の向上についての重要性がわかりやすく伝えられ、参加者も認識を新たにしています。



▲入舸会館での栗原毅氏による講演

また、同日の夜には海洋センターで、栗原毅医師の講演と美園町内を歩く「ナイトウォーク」が行われました。参加者も肌寒い中でも、積丹の風を感じ、「仲間のできる健康づくり」を談笑しながら心地よい汗をかいていました。

町では今後も、各種健康事業を実施しますので、ぜひご参加ください。

姉妹都市交流 第35回刃物まつりへ参加

積丹町地域間交流推進協議会（会長：鎌田淳史町自治会等連合会長）や議員などの訪問団10人が、姉妹都市高知県香美市で10月15日・16日の二日間開催された「第35回刃物まつり」に参加し、「積丹町北海物産市場」を出店。積丹町産農産物や珍味、鮭のチャンチャン焼きなどの販売を行い、自慢の味覚で積丹町をPRしました。

19回目となる今回のPRブースの出店では、土佐山田婦人会や香美市職員の皆さんなどから手厚い協力をいただき、用意した商品は瞬く間に完売する盛況で、来場者からは「積丹の出店を毎年楽しみにしているよ！」といった温かい声がたくさん寄せられました。

恒例のYOSAKOIソーランへの合同チームでの参加や、相互のイベントへの訪問に続き、昨年からは両市町の児童による相互交流も新たに行われており、北と南の交流はこれからも続きます。

